

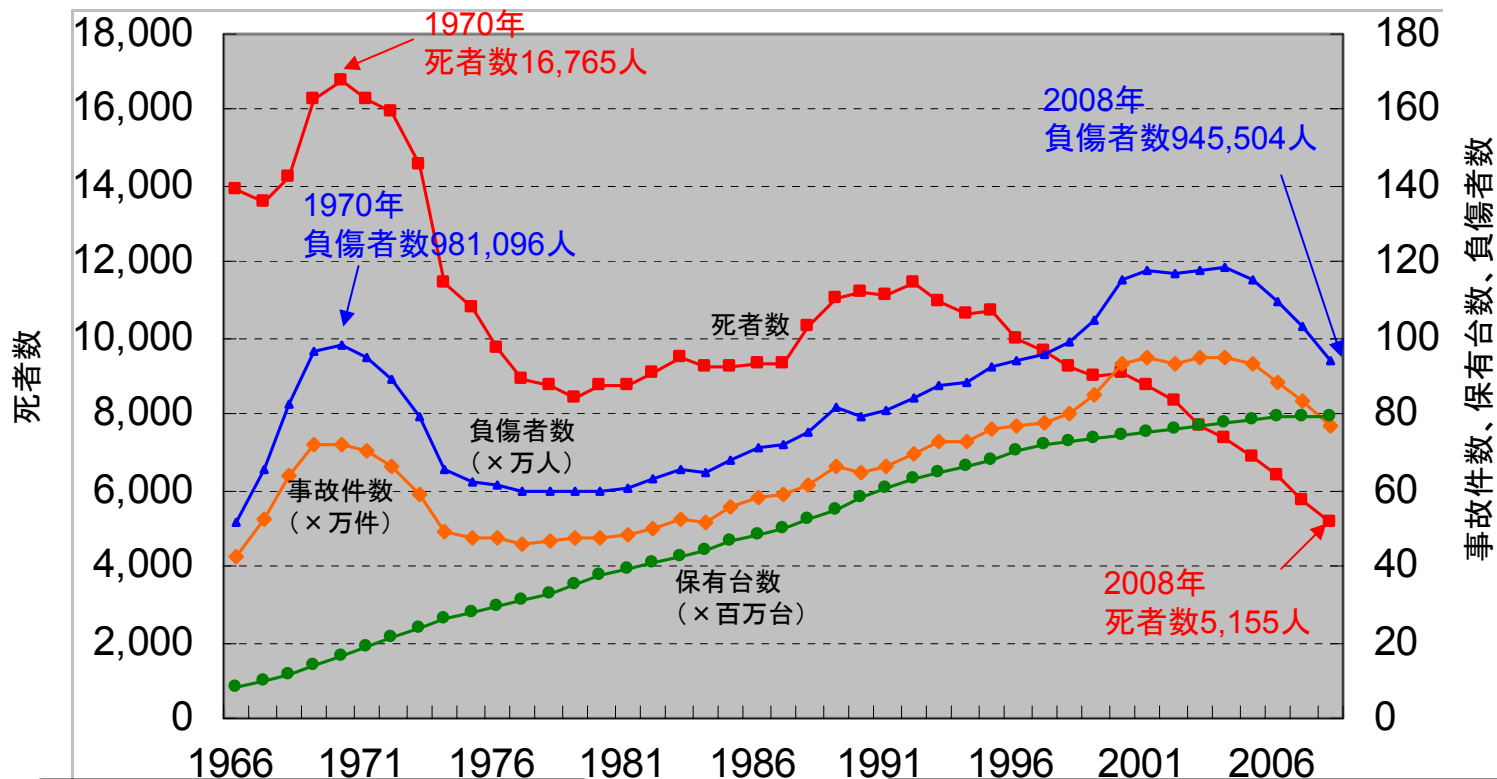
社会背景等データ集

- I. 交通事故の現状
- II. 高齢社会の状況
- III. 環境対策を取り巻く状況

I. 交通事故の現状

全交通事故件数及び負傷者数は、2000年から2005年までの間は高止まりで、全交通事故件数が90万件超、負傷者数が115万人超となっていたが、2006年から減少に転じている。一方、死者数は1997年以前からほぼ一貫して減少している。

交通事故死者数減少の全般的な要因としては、道路交通環境の整備、車両の安全性の確保、救助・救急体制の整備等、交通安全基本計画に基づく諸対策の総合的な推進によるものと推測されるほか、シートベルト着用率向上、高速走行による事故の減少、酒気帯び運転などの悪質な事故の減少等が挙げられる。



死者数削減目標

2010年までに**5,500人以下**
(2006年3月第8次交通安全基本計画)

2018年までに**2,500人以下**
(2009年麻生総理の談話等)

車両安全対策の推進により、
2010年に**2,000人削減** (対1999年比)
(2006年交通政策審議会報告)

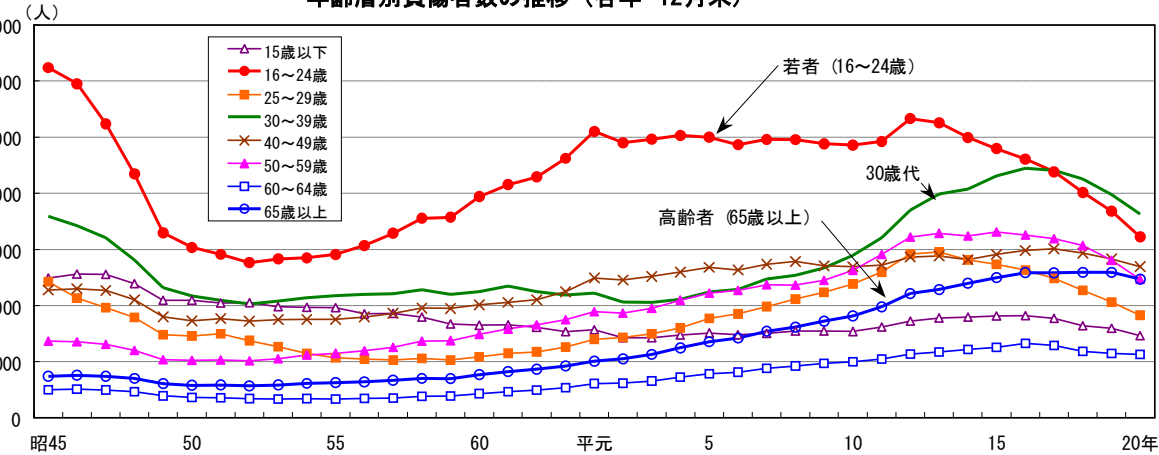
死傷者数・負傷者数削減目標

2010年までに死傷者数を**100万人以下**
(2006年3月第8次交通安全基本計画)

車両安全対策の推進により、負傷者数を
2010年に**25,000人削減** (対2005年比)
2015年に**50,000人削減** (対2005年比)
(2006年交通政策審議会報告)

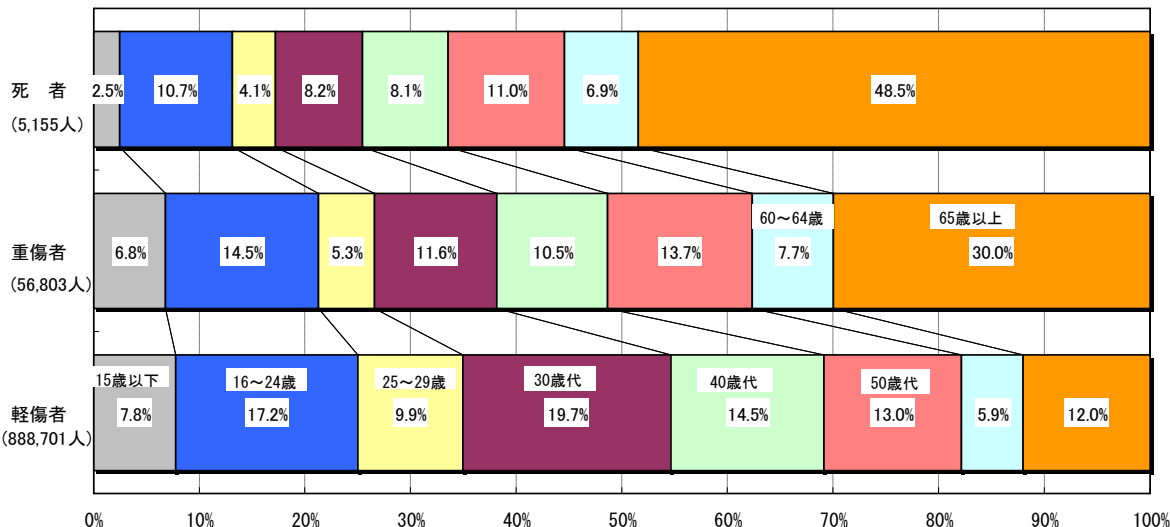
I. 交通事故の現状(年齢別)

年齢層別負傷者数の推移 (各年 12月末)



◎若者の負傷者数は減少傾向にあるが、高齢者については依然高水準

年齢層別死傷者の状況 (構成率) (平成20年中)

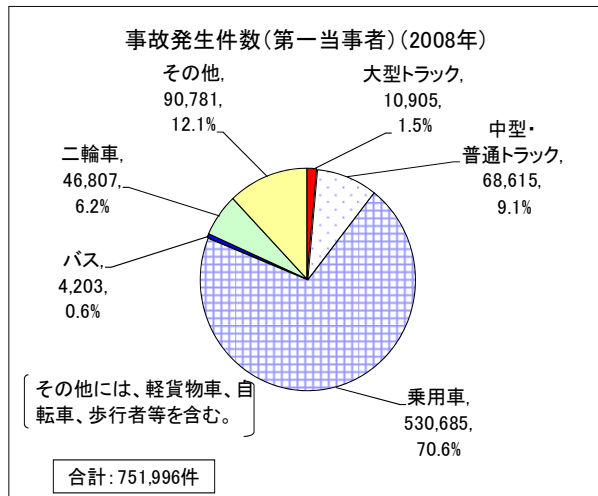


◎高齢者は死者及び重傷者に占める割合が高い (死者数のうち約半数が高齢者)

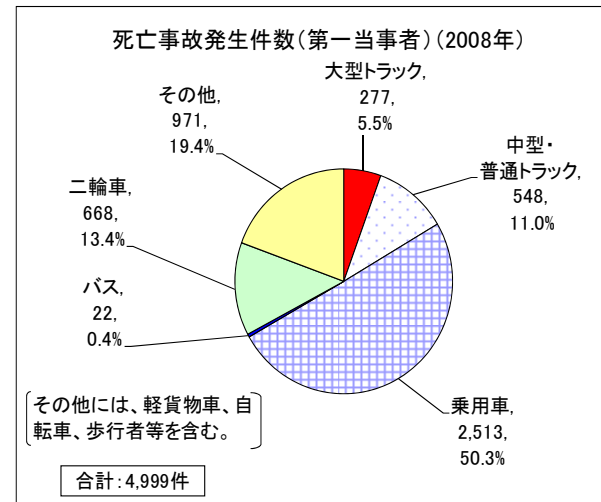
I. 交通事故の現状(車種別)

◎大型トラックの事故件数は比較的少ないが、一旦事故が発生すれば大きな被害を及ぼす

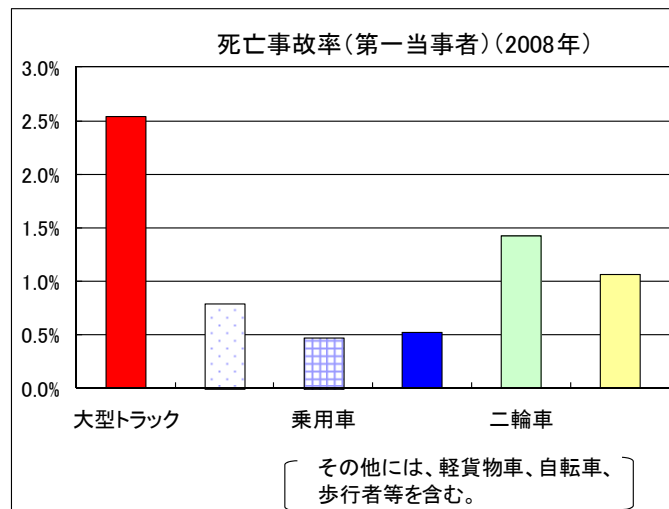
○車種別事故件数



○車種別死亡事故件数



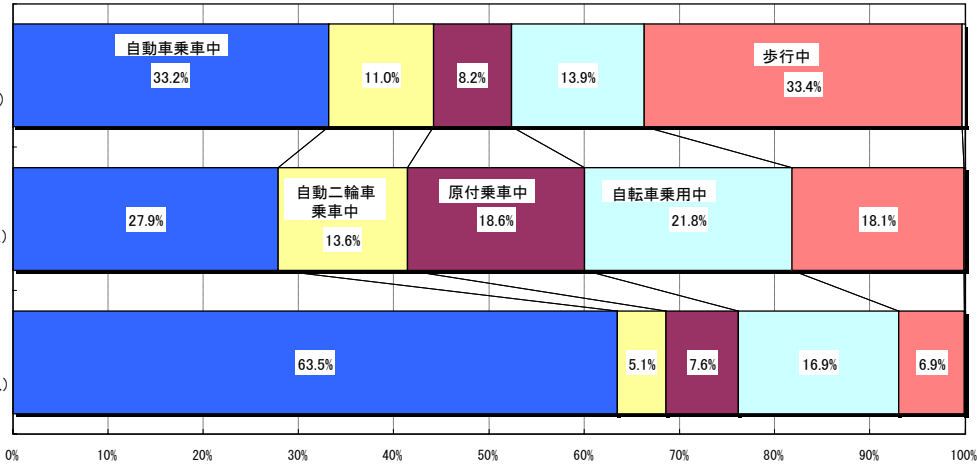
○車種別死亡事故率



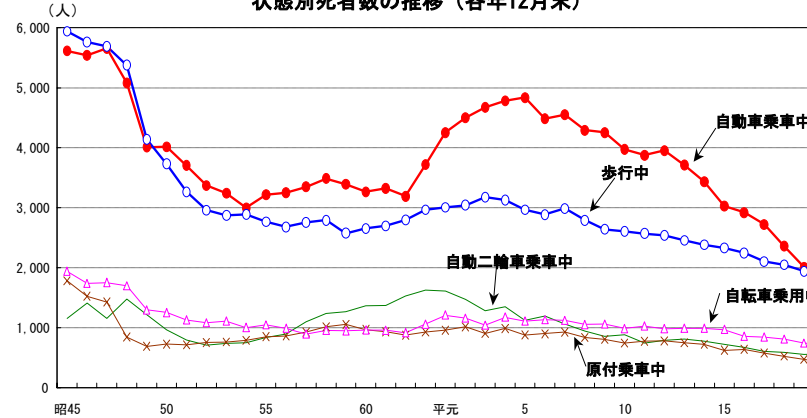
I. 交通事故の現状(状態別)

◎自動車乗車中の死者数の減少が顕著であり、歩行中死者が34年振りに最多の状態となった。

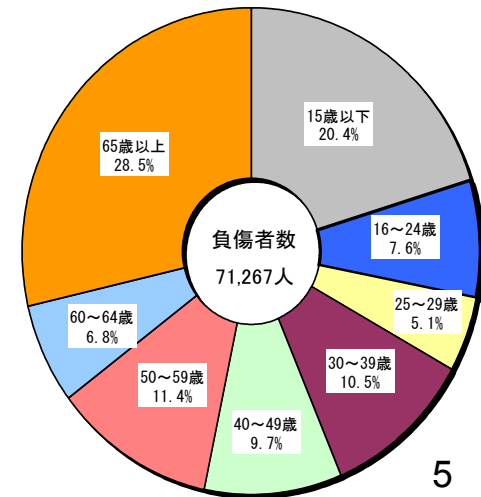
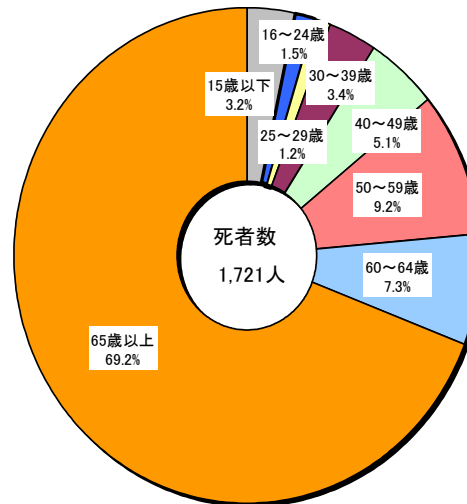
状態別死傷者の状況（構成率）（平成20年中）



状態別死者数の推移（各年12月末）



歩行中の年齢層別死傷者数（構成率）（平成20年中）



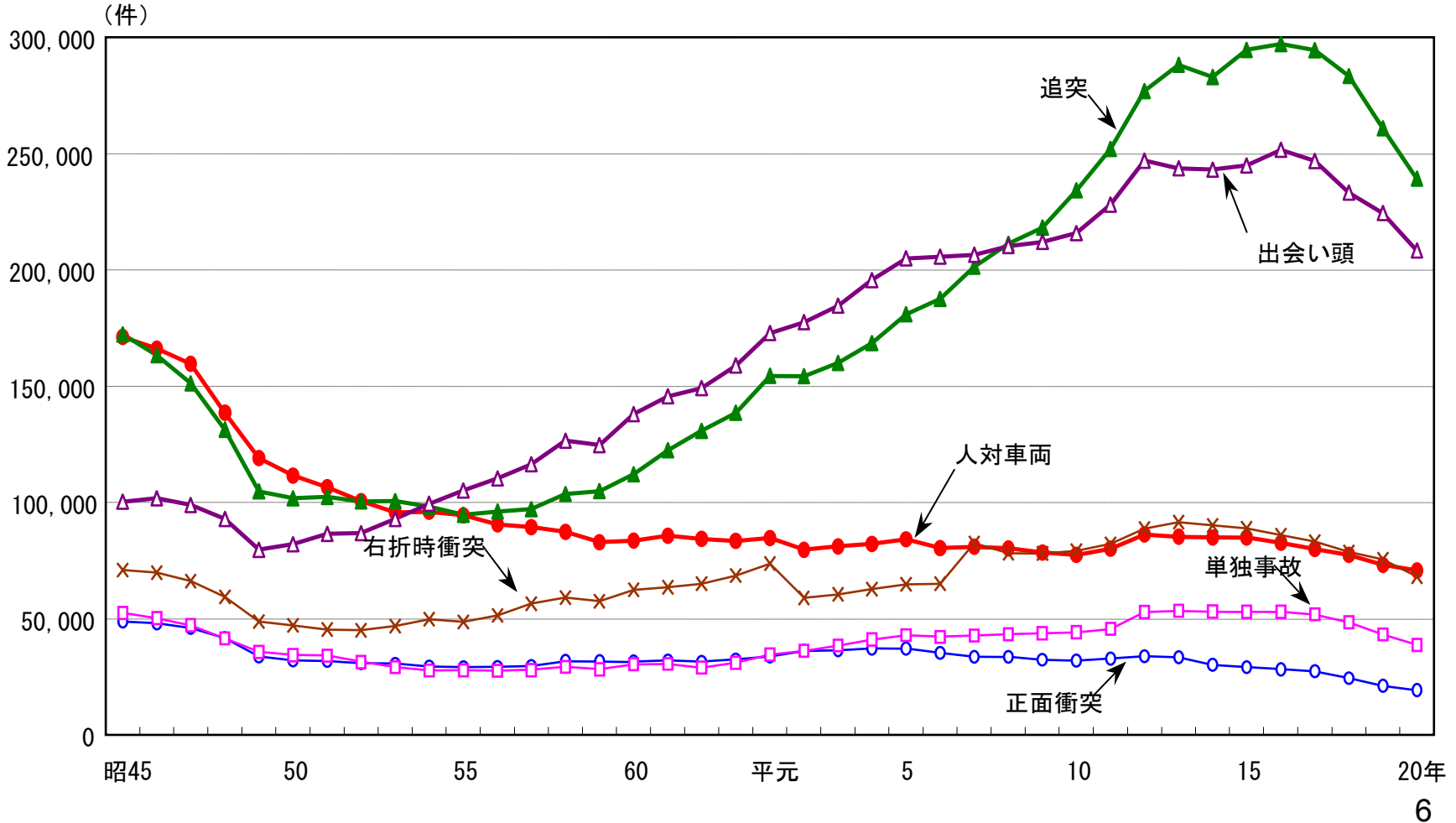
◎歩行中死者数のうち、高齢者が全体の約7割を占める。

◎歩行中負傷者数のうち、高齢者と子どもで全体の約半数を占める。

I. 交通事故の現状(事故類型別)

◎交通事故件数を事故類型別にみると、追突事故の件数が最も多い。

事故類型別交通事故件数の推移（各年12月末）



Ⅱ. 高齢社会の状況

◎65歳以上高齢者は増加傾向にあり、2008年には2,822万(22.1%)に達した

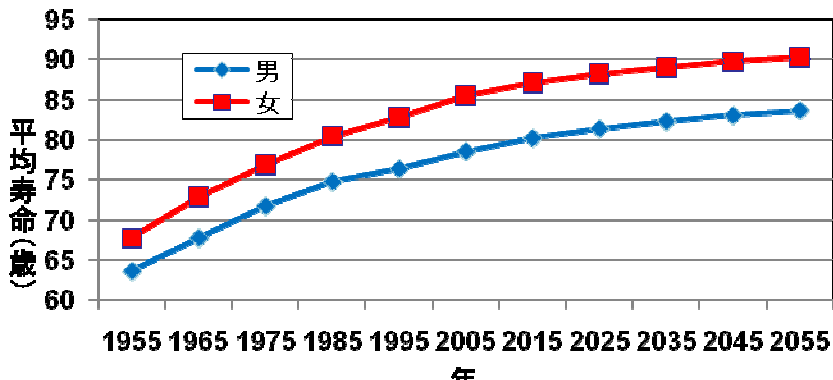
◎今後もこの傾向は持続すると予測

○高齢者人口の現状

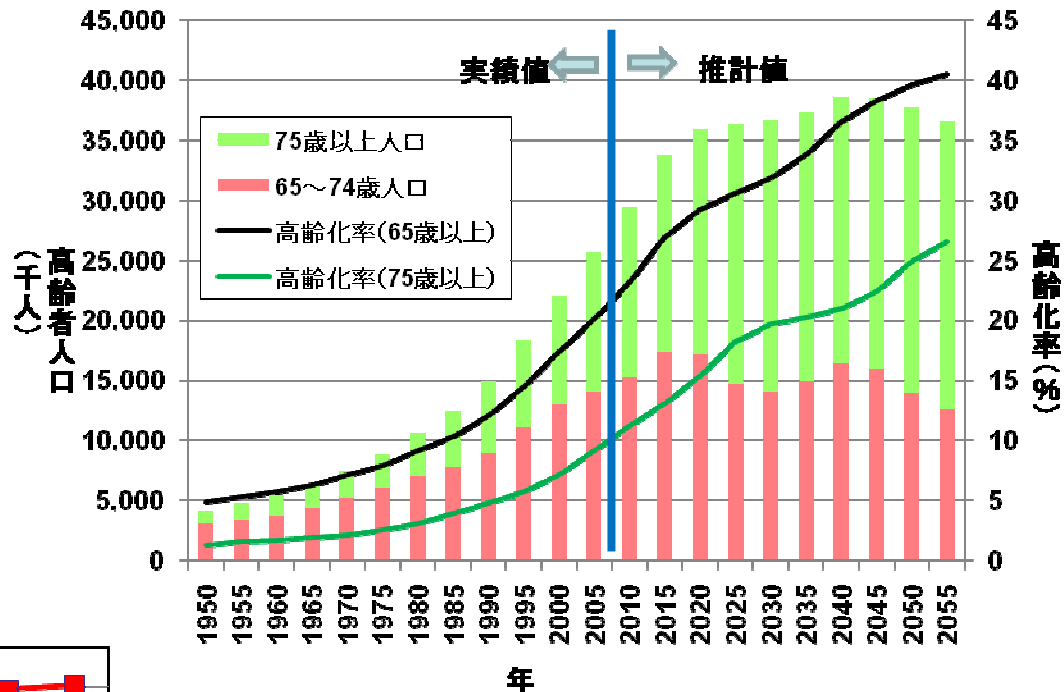
	総数	男	女
総人口	127,692 (100)	62,251 (100)	65,441 (100)
高齢者人口 [65歳以上]	28,216 (22.1)	12,044 (19.3)	16,172 (24.7)
65-74歳	14,998 (11.7)	7,058 (11.3)	7,939 (12.1)
75歳以上	13,218 (10.4)	4,986 (8.0)	8,233 (12.6)

単位: 千人(構成率%)
2008年10月1日現在

○平均寿命の推移



○高齢者人口の推移



IV. 環境対策を取り巻く状況

